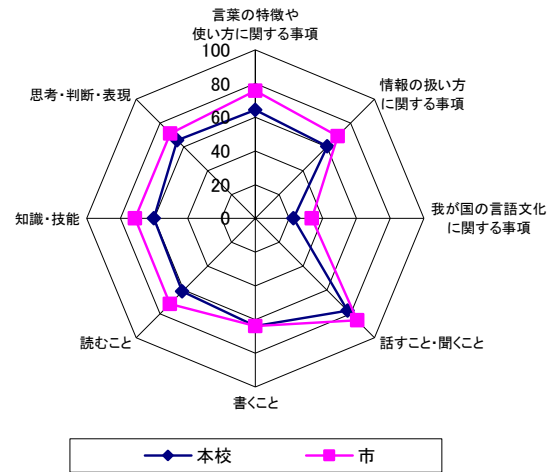


宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	64.4	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	60.4	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	22.6	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	77.4	85.5	86.5
	書くこと	63.8	63.9	65.8
	読むこと	61.3	71.6	69.5
観点別	知識・技能	60.2	71.3	72.9
	思考・判断・表現	65.5	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

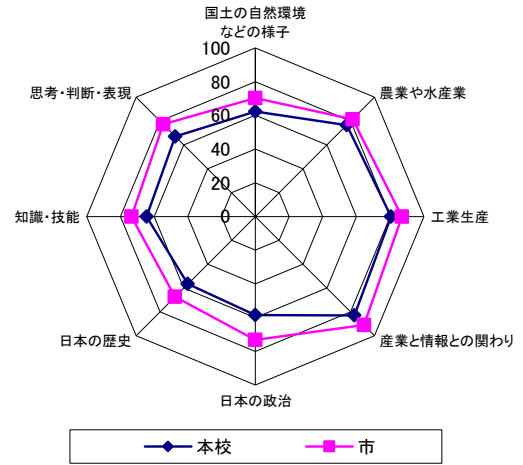
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>本校の正答率は64.4%で、市の平均を12.4ポイント下回っている。</p> <p>○●漢字を読む問題では、3問中2問の正答率が、90%を超え、市の平均と同等である。しかし、漢字を書く問題では、いずれも市の平均を13ポイント～28ポイント下回っており、漢字を書く力に課題が見られる。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・朝の学習や家庭学習をとおして、漢字練習の課題に継続して取り組ませたり、漢字オリンピックや小テストを目標に設定したりして、漢字の力を伸ばせるように指導を工夫していく。</p> <p>・読書を奨励し、様々な本や文章に触れさせることで、語彙力を増やしていく。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>●情報と情報の関係を理解し、原因と結果を捉える問題では、正答率が60.4%で、市の平均を8.7ポイント下回っている。情報の関係を捉える力に課題が見られる。</p>	<p>・授業の中で、文章を読み、段落に小見出しを付けたり、大体の内容を要約したりする学習を意図的に取り入れることで、文章に含まれる情報を正確に捉えたり、情報と情報の関係を理解できる力を伸ばしていく。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>●和語・漢語・外来語についての理解を確認する問題の正答率は、22.6%で、市の平均を10.9ポイント下回っている。</p>	<p>・身の回りの言葉について、和語・漢語・外来語の視点を意識させたり、授業で意図的に取り上げたりして、言葉の由来への興味が高まるようにする。</p>
話すこと・聞くこと	<p>本校の正答率は77.4%で、市の平均を8.1ポイント下回っている。</p> <p>○●インタビューの内容を聞き取り、話の内容を捉える問題では、正答率が94.3%で、高い理解度を示したが、市の平均正答率を2.9ポイント下回った。</p> <p>●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題では、正答率が58.5%となり、市の平均正答率を11.3ポイント下回った。</p>	<p>・普段の授業や1分間スピーチなどから、発表者や相手の話をただ聞くだけでなく、常に質問や感想をもつようにするなど、受け手としての意識をもって話を聞くことを指導する。</p>
書くこと	<p>本校の正答率は63.8%で、市の平均とほぼ同等である。</p> <p>○目的や意図に応じて伝えたいことを明確にする問題では、正答率が73.6%であり、市の平均を3.8ポイント上回った。</p> <p>○予想される反論とそれに対する意見を書く問題では、正答率が54.7%であり、市の平均を3.5ポイント上回った。</p> <p>●目的や意図に応じて書くことを選び、伝えたいことを明確にする問題では、正答率が58.5%となり、市の平均を5.6ポイント下回った。</p>	<p>・自分の考えを読み手に分かりやすいように書いたり、反論を予想したうえで意見を示す力を身につけるため、朝の学習や授業の中で、条件に合わせて文章を書く活動を意図的に設定し、さらに書く力を伸ばす。</p> <p>・根拠をもって自分の意見を明確に表すことができるよう、普段の授業から、意見を発表する際には理由をつけて、自分の意見に説得力をもたせるよう指導する。</p>
読むこと	<p>本校の正答率は61.3%で、市の平均を10.3ポイント下回っている。</p> <p>●登場人物の心情について、描写をもとに捉える問題では、正答率が73.6%であり、市の平均を3.4ポイント下回った。</p> <p>●目的に応じて、文章の情報を整理する問題では、正答率が39.6%となり、市の平均を22.1ポイント下回った。</p>	<p>・物語の学習では、登場人物の様子や心情について、描写をもとに捉える力を養うために、心情や様子の根拠を描写の中に求める指導をしていく。</p> <p>・説明文の学習では、目的に応じて文章の情報を整理する力を養うために、段落の内容を大まかに捉えさせたり、情報と情報を関連付けながら文章を整理させる活動を充実させる。</p>

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

領域別	観点別	本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	62.3	70.3	66.4
	農業や水産業	76.7	81.6	75.3
	工業生産	80.5	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	83.0	91.0	81.3
	日本の政治	58.5	73.2	75.3
観点別	日本の歴史	56.6	67.4	68.5
	知識・技能	64.5	73.5	72.5
	思考・判断・表現	67.1	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

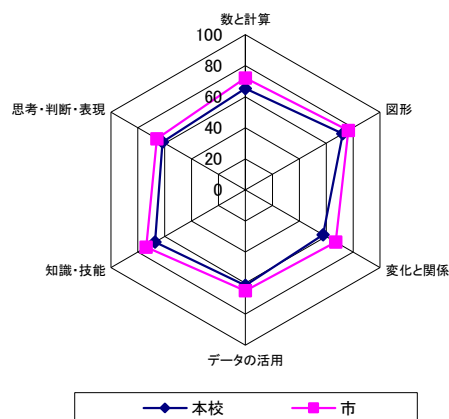
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>本校の正答率は62.3%で、市の平均を8ポイント下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日本周辺の海洋名についての理解を問う問題の正答率は73.6%で、正答率は11.1ポイント市の平均を下回った。 ●季節風についての理解を問う問題の正答率は45.3%で、市の平均を13.2ポイント下回った。 	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国土の主な地形や国土周辺の海洋名などを繰り返し復習し、知識の定着を図る。 ・季節と風向の関係を、地図や図を用いて「どこからどこへ風が吹くのか」視覚的に捉えられるようにして、繰り返し確認する。
農業や水産業	<p>本校の正答率は76.7%で、市の平均を4.9ポイント下回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コメの品種改良についての理解をもとに、資料を読み取る問題では、正答率は56.6%で市の平均正答率を9.7ポイント下回った。 ○コメの生産が盛んな地域について、地図から読み取る問題では、正答率が84.9%で市の平均を1.2ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な資料を読み取る経験を通して、整理・比較・分析し、正しいものを選択する力を高めたい。 ・知識の習得だけでなく、得られた知識や情報を自分の言葉でまとめる活動を取り入れていく。
工業生産	<p>本校の正答率は80.5%で、市の平均を6.5ポイント下回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安全生の高い自動車づくりについて、資料をもとに答える問題では、正答率が90.6%で高い理解度を示したが、市の平均正答率を5.0ポイント下回った。 ●日本の貿易の変化について、資料をもとに答える問題では、正答率が67.9%で、市の平均正答率を9.5ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図やグラフなどの資料を読み取る活動において、内容を整理したり資料同士で比較したりしながら読み取る力を高めるとともに、話し合う活動を通して、思考力の向上を図る。特に、日本の輸出品・輸入品については、グラフを読み比べる復習をし、自分の言葉でもまとめられるようにする。
産業と情報との関わり	<p>本校の正答率は83.0%で、市の平均を8.0ポイント下回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●情報を生かした産業について問う問題では、正答率は83.0%で市の正答率を10.1ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の授業から情報をもとに予想したり、自分たちの生活と情報の関わりを気付いたりできるように指導する。
日本の政治	<p>本校の正答率は58.5%で、市の平均を14.7ポイント下回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日本国憲法の原則である基本的人権の尊重についての理解は、正答率が35.8%で市の平均正答率を33.0ポイント下回った。 ●租税の役割についての理解をもとに答える問題では、正答率が47.2%で市の平均正答率を19.8ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の三原則が、「自分たちの生活とどう関わっているか」という視点をもたせるとともに、授業の導入や最後に唱えさせたり、書かせたりして繰り返し確認を行っていく。 ・学校や道路など、児童の生活に直結する事例を取り上げ、税金が社会を支えていることを実感させ、税金と身近な生活との結び付きを具体的に捉えられるようにする。
日本の歴史	<p>本校の正答率は56.6%で、市の平均を10.8ポイント下回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○鎌倉幕府の政治の仕組みの理解をもとに、資料を読み取る問題では、正答率が60.4%で市の平均正答率を0.5ポイント上回った。 ●江戸時代の禁教と鎖国について、適切な資料を選択する問題では、正答率が39.6%で市の平均正答率を26.5ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史の出来事だけでなく、その背景や意図を十分に理解させた上で、知識の定着を図る。 ・まとめの新聞やレポート、スライド作りなどを通して、資料を活用したり、要点をまとめたりしながら、自分の言葉で表現する力を育てる。 ・自主的な調べ学習を奨励し、歴史的事象のつながりや相違点が生まれた理由などについて気付かせて学習内容の理解を図る。

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	65.4	72.1	74.6
	図形	72.3	76.5	76.1
	変化と関係	57.7	67.1	59.7
	データの活用	61.5	65.0	64.5
観点別	知識・技能	67.2	73.8	74.7
	思考・判断・表現	61.6	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

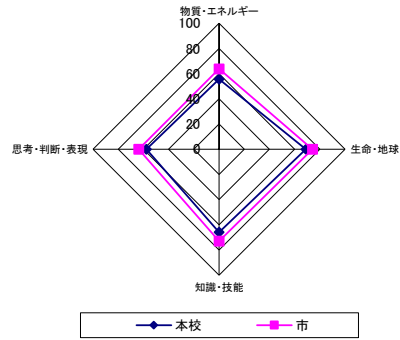
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>正答率は65.4%で、市の平均を6.7ポイント下回っている。</p> <p>○小数の乗法の文章問題の正答率は90.6%で、市の平均を2.1ポイント上回った。</p> <p>●片方の分母にそろえる通分をする真分数の計算問題では、市の平均正答率より10.7ポイント下回った。</p>	<p>・引き続き、既習の整数・分数・小数の四則計算の練習を朝の学習や宿題で取り組ませていく。</p> <p>・児童に苦手な分野を確認させ、教科書巻末の「6年間の算数の総まとめ」で補充的学習ができるようにする。復習用教材をプリントして常に用意しておく、それも有効活用していくなど、個に応じた指導を継続していく。</p>
図形	<p>正答率は72.3%で、市の平均を4.2ポイント下回っている。</p> <p>○2つの角が与えられた三角形の外角を求める問題の正答率は71.7%で、市の平均を5.1ポイント上回った。</p> <p>●正多角形の中から点対称な図形を選ぶ問題では、市の平均正答率より10.4ポイント下回った。</p>	<p>・図形の作図については、三角定規やコンパスを適切に使い、様々な方法で正確にできるよう各学年で丁寧に扱っていくようにする。</p>
変化と関係	<p>正答率は57.7%で、市の平均を9.4ポイント下回っている。</p> <p>○単価が異なるBセットとCセットを1つずつ買ったときの、ノート1冊あたりの値段を求めるという「単量あたりの大きさ」の問題では、市の平均を2.4ポイント上回っていた。</p> <p>●速さと時間から道のりを求める問題では8.1ポイント、車両数と人数の割合を求め、最も混んでいる路線を考察する問題では5.2ポイント、基準量と割合から日関係を求める問題では21.0ポイント、単量あたりの大きさを求め、どちらが1冊あたりの値段が安いかを説明する問題では、14.9ポイント、市の平均を下回っている。</p>	<p>・社会や理科などの他教科や日常生活に関連付け、人口密度や物の割合などを求める場面を設定したり、練習問題を多く解く時間を確保することにより、単量あたりの大きさの計算の習熟を図っていく。</p> <p>・速さ・道のり・時間の関係を十分に理解させるとともに、公式をしっかりと覚えさせ、速さと道のりから時間を求めたり、道のりと時間から速さを求めたり、必要に応じて速度を秒速や分速、時速に変換したりできるように、問題に十分取り組ませ、習熟を図りながら応用力を高めていけるようにする。</p>
データの活用	<p>正答率は61.5%で、市の平均を3.5ポイント下回っている。</p> <p>○円グラフを読み取る問題では1.8ポイント、ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録が一番多いわけではないことを説明する問題では4.1ポイント、市の平均を上回った。</p> <p>●値に0がある分離量の平均を求める問題では12.5ポイント、ドットプロットから最頻値を求める問題では、8.1ポイント、市の平均を下回った。度数分布表を完成させる問題では、83.0%という比較的高い正答率だったが、2.7ポイント市の平均を下回った。</p>	<p>・朝の学習や宿題等で、ドットプロットと様々な代表値についての復習問題に多く取り組ませ、学習内容を確実に理解するよう指導を継続していく。</p> <p>・様々な課題の内容を正確に把握し、計算方法を図や文章で表す機会を設定し、今後もさらに習熟を図っていく。</p>

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	55.6	63.8	61.6
	生命・地球	68.9	74.1	73.3
観点別	知識・技能	65.9	73.0	71.3
	思考・判断・表現	57.6	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>本校の正答率は55.6%で、市の平均を8.2ポイント下回っている。</p> <p>○「ふりこのきまり」では、ふりこの周期の測定方法を理解する問題において、市の平均を2.5ポイント上回っている。測定の手順や測定時の条件を正しく捉えることができている。繰り返し測定することの必要性や、測定方法の妥当性についての理解が比較的高いことがうかがえる。</p> <p>●「電流のはたらき」では、全ての問題で市の平均を下回る結果となった。特に、ごみ処理場での電磁石の利用方法から電磁石の性質を指摘する問題では、市の平均を16.4ポイント下回っている。学習した知識を実生活の場面に当てはめて考える力に大きな課題が見られる。</p> <p>●「物のとけ方」では、全ての問題で市の平均を下回る結果となった。特に、「水よう液」という用語の意味を理解する問題では、市の平均を19.0ポイント下回っている。用語の定義を正確に捉える基礎的理解に大きな課題が見られる。</p> <p>●「水よう液の性質」では、全ての問題で市の平均を下回る結果となった。うすい塩酸と炭酸水を見分ける実験を構想し、説明する問題では、市の平均を13.6ポイント下回っている。実験の目的に応じて方法を考え、理由を説明する力が十分でないことがうかがえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な用語や概念の理解を確実にする指導を行う。特に、「物のとけ方」や「水よう液の性質」において、用語の意味や現象の捉え方を、実験結果や具体物と結び付けながら丁寧に確認する。 学習した知識を実生活の場面に当てはめて考える力の育成を図る。「電流のはたらき」では、身近な事例を基に、電磁石の性質を説明する活動を取り入れ、知識の活用を促す。 実験の目的に応じて方法を構想し、理由を説明する力の育成を重視する。「水よう液の性質」では、実験方法を選んだ理由を言葉で表現させる場面を設定し、思考力・表現力の向上を図る。 実験結果を比較・分析し、要因を捉える学習の充実を図る。複数の結果を基に共通点や違いを整理し、現象の原因を考える活動を通して、科学的に考える力を高めしていく。
生命・地球	<p>本校の正答率は68.9%で、市の平均を5.2ポイント下回っている。</p> <p>○「動物のからだのつくりとはたらき」では、心臓と血液のはたらきを理解する問題において、市の平均を7.3ポイント上回っている。血液循環の基本的な仕組みについてはよく理解されている。</p> <p>●「植物のつくりとはたらき」では、全ての問題で市の平均を下回る結果となった。特に、植物が養分をつくるために必要なことを理解する問題では、市の平均を10.0ポイント下回った。光や水、二酸化炭素などの条件を関連付けて理解することに課題が見られる。</p> <p>●「月と太陽」では、全ての問題で市の平均を下回る結果となった。特に、月・太陽・地球の位置関係と月の見える形を理解する問題や、月の見える形が変わる理由を説明する問題において、市の平均を14.0ポイント下回っており、空間的な位置関係を捉えたり、観察結果を基に理由を考えたりする力に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 複数の条件や要素を関連付けて考える力の育成を図る。特に「植物のつくりとはたらき」では、光・水・二酸化炭素などの条件と植物のはたらきを結び付けて考える学習を重ね、養分がつくられる仕組みの理解を深める。 空間的な位置関係を捉える力の向上を図る。「月と太陽」では、月・太陽・地球の位置関係を模型や図を用いて多面的に捉えさせ、見え方の変化との関係を整理する活動を充実させる。 観察結果や資料を基に、理由を考え説明する力の育成を重視する。観察や実験の結果を基に、「なぜそうなるのか」を言葉で説明する場面を意図的に設定し、思考力・表現力の向上を図る。

宇都宮市立御幸が原小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	4月に「家庭学習の手引き」を各家庭に配付し、学年に応じた家庭学習の時間の目安や内容の提示と啓発 5月、1月に「家庭学習強化週間」を実施し宿題や自主学習の習慣化や取り組み方の周知	宿題への取組については、全学年で市の肯定平均割合を下回る結果となった。一方で、自分で計画を立てて家庭学習へ取り組むことについて、5年生以外は市の平均を上回った。家庭学習の習慣化が十分ではなかった。
主体的に学びに向かう授業のデザイン	見通しをもって粘り強く取り組めるような課題の設定や提示の仕方の工夫 成果や自分の成長、つまずきを実感できるような振り返りの工夫	3年生以上での「学習した内容についてよく見直し、次の学習へつなげることができる」への肯定的回答は、3・4年生で市の平均を上回った。また、主体的な学習態度についても、3・4年生のみ市の肯定回答割合を上回っており、自分自身で学習を繋げていくことが主体的な学びの実感に繋がるようである。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・「家庭学習強化週間」の実施
5月と1月に1週間程度実施し、5月には家庭学習の習慣化を目指した内容や時間の提示を行う。1月には良い自主学習の取組を学年に応じて紹介するなどして自主学習の呼びかけと共に内容の充実も図る。
- ・「漢字オリンピックテスト」の実施
既習漢字を書く問題に課題が見られたので、次年度も学期に1回、全学年でほぼ同時期に漢字のまとめテストを「漢字オリンピックテスト」として実施する。家庭にも実施を周知し、特に2度目の「家庭学習強化週間」は実施時期を調整し、保護者の見守りや励ましの下、家庭学習においても十分練習できるよう配慮する。
- ・学びのユニバーサルデザイン化
これまで本校で活用してきた、「振り返りのヒントカード」を継続して活用し、自分の学びの見直しや次の学習への意識づけを行っていく。さらに、学習の個性化と指導の個別化を目指し、教材提示の仕方を工夫したり、多様な表現の方法を認めたりすることで、児童自身が自らの学びを調整し主体的に学習に取り組めるようにしていきたい。そのなかで、児童自身が、できるようになった自分の成長に気付けるようにしていきたい。